① ２０２２年１０月２日　青戸教会説教『真実な神』　　高橋克樹牧師

出エジプト記１２章２１～２７節、ヘブライ書９章２３～２８節

ヘブライ書は初期ユダヤ教の黙示思想の影響もあって、迫害の困難に耐え抜くための信仰者の希望を語っています。迫害の厳しい時代に生きるためには「偉大な証人たち」（１１章１節～１３章１７節）の信仰に倣うことが大切だと言っています。全体としては迫害の時代にどのように対応しながら信仰生活を行っていくかを語った説教集と理解するとわかりやすい書物です。９章１５節以下によると、キリストは大祭司としてこの世に来られた存在なのですが、同時に『新しい契約の仲介者』だと言われています。キリストはモーセとは別のかたちの仲介者であり、２３節以下ではキリストが新しい契約のための「いけにえ」となってくださったと言われています。ただ、旧約における大祭司は年に１回動物のいけにえの血を携えて聖所に入り、それを、毎年繰り返して行うのですが、それに対してキリストはただ一度きり御自身をささげられたのです。つまり、これが神によってなされた最終解決であったのです。神は最初の人間アダムが罪を犯した瞬間から、人類を救おうというご計画を抱いていたのですが、その完全な贖いの業がイエス・キリストを十字架につけることによって完成したということです。その完全な贖いがイエス・キリストを十字架につけることによって完了したのでした。何が完了したかと言うと、神の永遠の救いの御業が完了したのです。これが神のファイナルアンサーとなったのです。これがイエス・キリストが罪を贖う「唯一のいけにえ」となったことの意味なのです。そして、これによって人類との間に新しい契約が交わされて救いが完成したのです。これに対して古い契約では、大祭司が年ごとに繰り返し動物の犠牲(いけにえ)の血をささげなければならなかったのです。しかし、キリストはただ一度、この世に肉の姿をとって来られ、御自分を十字架の犠牲（いけにえ）として捧げられたのです。この犠牲（いけにえ）の血によってすべての人類の罪が贖われたのです。

２８節では『二度目は、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださる』と、いったん贖われた以上、キリストの再臨のときには、終末の審判におびえるのではなく、神の祝福の中に招いて下さるというのです。使徒信条には「生ける者と死ねる者とを審きたまわん」とあるように、終末の時に最後の審判を受けるのですが、その審判におびえる必要はないのです。

ここのところの理解がないと、旧統一教会のように、新たなメシアとしての文鮮明が必要であるかのよ

うな、誤ったメシア像が生まれてくるのです。そして、献身のしるしとしてお金を捧げなさいという拝金主義に陥ってしまうのです。へんな言い方になりますが、エホバの証人の人たちは家庭訪問を熱心にします。それは伝道しないと自分が救われないと考えているからです。けれども、ヘブライ書によれば、キリストは私たちの罪のために十字架にかかって死んで、三日目によみがえられたことによって死に勝利され、今は、天国のまことに聖所にあって、私たちのために熱心に執り成しておられるのです。ですから、このキリストを信じて生きるならば、誰でも救われているのです。それにもかかわらず、救いを自分の力で完全なものにしようとするところに異端的な考え方が生まれて来るのです。

ヘブライ書の著者は、この世のすべてのものは天にあるものの写し（模型）であると考えています。さらにエルサレム神殿における地上の祭儀は、天の「原型」（ホ・トュロス）の『写し』（ヒュポデイグマ）と影（スキア）であるに過ぎないという考えを持っています。そして、このすべてのもの（＝被造物）は天にあるもの（原型）の『写し』（＝模写、模型）であるから、必然的に天においてもキリストによる清めが行われなければならないと考えています。天国で、キリストは神の前で、私たちこの世の被造物の元型たる存在を清めてくださっていると受け留めているのです。

ここで面白いのは、ヘブライ書の筆者は原型と写しという表現で、天と地の関係性は、相互に影響し合うものであると考えている点です。天で清めが行われているならば、それは地上の祭儀よりも必然的に「すぐれた犠牲奉献」であるはずであると考えているのです。それこそがキリストによる新しい契約として私たち人類との間に交わされた救いの約束なのです。このように天の国でキリストが執り成しをして下さっているから、たとえ、地上で私たちが再び罪を犯したとしても、天にあるキリストによって執り成しを受けているから、永遠の救いが完成していることが確実なのです。このように、キリストを信じる者すべてが、この神の永遠の救いの中に招き入れられているというファイナルアンサーが与えられているのです。この救いの約束がファイナルアンサーとして、キリストを信じる者すべてに与えられているからこそ、最終的な救いの業が完成しているのです。このように、ヘブライ書は十字架の贖いの業が与えられた後の時代に生きるキリスト者に迫害や苦難の中にあっても、確実な救いのかたちを、天と地上を対比させながら、教えているのです。ですから、使徒信条の中で語られているように、終末の時にすべての信仰者が最後の審判によって裁かれて地獄に行くような誤った福音理解に陥ることなく、天にあって執り成しをしてくださっているキリストを見上げながら、この地上の生を全うしていけばいいのです。